

2019年度 県立水戸農業高等学校自己評価表（定時制）

目指す学校像	知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
[昨年度の成果] ・授業，立哨指導あるいは保護者との連携等を通した反復指導で基本的生活習慣を身に付けた生徒が増えた。 ・教員が授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科，学年，進路指導部等が一体となって指導をしたことにより，進路指導の成果が上がった。 ・感染症への適切な対応ができた。 ・農林水産部等との連携事業により，就農志向者の意識が向上した。 ・いばらきものづくり教育フェアを成功裡に終了することができた。農業クラブ活動の活性化にもつながり，農業高校のPRもできた。 ・農業クラブ茨城県大会において，優秀賞を受賞することができた。 ・部活動の全国大会において，優秀な成績を収めることができた。 [本年度の課題] ・個に応じた分かりやすい授業に心がけ，授業に意欲的に取り組む態度を育成する。 ・各学年との連携を密にして，1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して，進路情報を適切に提供する。 ・進路講話やインターンシップ等により，職業体験活動の参加者数を増やし，望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・道德教育をあらゆる教育活動を通して行い，公共マナーの遵守と規範意識の高揚に努める。 行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・資格取得を奨励し，学習意欲の向上を図る。		・基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の育成	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ，けじめのある行動や5分前行動をこころがけることで，自主・自立の精神を育ませる。 ・豊かな人間性や素直な心を育み，コミュニケーション能力を育成することで，いじめ防止につながるような，より良い人間関係の構築に努める。	B	
		・基礎学力の向上と思考力・判断力・表現力の育成	・主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせ，基礎学力の定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し，思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。	B	
		・系統的な進路指導と指導体制の確立	・生徒の進路希望実現のための適切な支援を行い，100%の進路実現を目指す。 ・就業体験，就農講話等を通して勤労観・職業観を育成し，キャリア教育の充実を図る。 ・各種資格取得に向けた取組を奨励する。	A	
		・特別活動及び部活動の活性化	・成達会等の自主的活動を推進する。 ・いきいきいばらき国体 2019（馬術競技大会）の会場校として，その成功に向けて協力する中で，生徒にも様々な形での参加の機会を持たせるようにする。 ・定通体育大会への取組を通して部活動への意欲を高めるとともに，大会参加人数を増やす。休業日における部活動と勤労活動の日程のバランスを指導する。	A	
		・健康と安全教育の充実	・生徒の心身の健康に資するよう保護者，養護教諭，スクールカウンセラー等との連携を密にする。（特別支援教育専門家との連携） ・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など，安全教育の充実を図るとともに危機管理・防災・不審者対応などのマニュアルの点検を行う。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し，実効性ある訓練を行う。	A	
		・農業専門教育の充実と地域連携	・一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業への取組を推進することで，魅力ある農業教育を実践し，農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませ，学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに，地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 ・資格取得への積極的な取組と合格率の向上を図る。	A	
		・保護者や地域から信頼される学校づくりの推進	・HIP等を通して学校の教育活動を積極的に広報し，学校・家庭・地域社会の連携の下，開かれた学校づくりを推進する。 ・地域市町村の催事に積極的に生徒を派遣し，地域との協力体制を構築する。 ・敷地，施設・設備の公開及び貸し出しにより，地域活性化の拠点となる。	A	
		・学校施設設備の充実	・学習効果の向上に繋がるよう，学校施設の更なる整備・充実を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評 価	次年度（学期）への主な課題
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	新校舎の環境整備を図る。 新教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。 職員室の環境整備にあたる。		A B A	・観点別評価をもとに考查内容の充実と評価の適正化を図る。 ・資格取得の促進を図る。 ・水農体験・学校公開やホームページなどを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。 ・学校行事や曜日の偏りを考慮し授業時間の確保をする。 ・新学習指導要領に沿った教育課程を検討する。
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し，授業内容の充実を図る。 授業に対する取組方法や授業改善計画を基に，より一層質の高い授業を展開する。 観点別評価を基にシラバスを作成し，評価の適正化を進める。 資格取得に向けての取組を強化する（全体計画・指導計画の検討）。		B A A A	
	広報活動の充実	ネットワーク委員会と連携し，ホームページを充実させる。 水農体験・学校公開やホームページの充実などを通して学校外へ積極的に情報を発信していく。 積極的に中学校訪問を実施する。		A A A	
				A	
				A	
				B	
	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し，制服を整えさせる。 授業開始時間の着席を厳守させ，授業に取り組む態度を育成する。		A B	・教員間の生徒指導に対する共通理解及び共通実践を深める。

生徒指導部		挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。	B B	B	・生活指導を継続していき、生徒の自立心を育む。 ・基本的生活習慣の確立を図り、社会に適應できるマナーやモラルの向上を図る。 ・学校行事や体験を通して、思いやりのある心を育てる。
	安全な学校生活環境の維持	授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	B		
		貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。	B B		
		自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	B A		
	心の教育の推進	立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。 薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	A A		
		農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。 教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	A B A		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動等を通し生徒の規範意識を高めさせる。	B		
		早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。	A		
		早期解消に向け被害者を保護し、速やかな実態把握及び加害者の対応にあたる。	A		
		保護者や警察、相談所等と連携し情報交換を行う。	A		
		教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	A		
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部の活動も活性化を図る。 活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B B	B	・学校行事の精選および生徒主体で運営できる体制を整える。 ・委員会活動の活性化。月に1回程度の委員会の時間を確保する。 ・部活動の加入率および継続率の向上。指導者研修会の実施。技術指導者の確保。活動時間の遵守。 ・テニスコート、体育館フロア等の設備の補修・整備をすることで、安全確保に努める。 ・成達会役員の研修の機会の確保。
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。	A		
		各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A		
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	4年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。 各種進路情報の収集、積極的活用、情報の共有のために全日制との連携を図る。	B A A B	A	・進路部会を定期的 to 実施し、進路内の情報の共有を図り、生徒の進路実現を促す指導体制を強化する。 ・就業意欲を喚起するため、インターンシップが効果的であることから、積極的に参加を促す。 ・継続的、効果的な指導を推進するために、学年および学科における進路指導体制を強化するとともに、農場部や普通教科を含めた総括的な指導を進める。 ・進学指導等の課外授業を定期的 to 実施することで、進学希望者の進路実現を図る。
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。	B B		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	A A		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。 生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A	A	・学校内の各施設の環境を整備し、職員・生徒が安全かつ快適に過ごせるように環境改善に努める。【校舎外トイレの改修（中庭トイレ整備、体育館前トイレ洋式化等）、更衣室整理、職員室エアコン改修（東西のスイッチを南北へ）、教室のエアコンのメンテ、インフル対策用品、清掃用具など】
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	A		
	防火防災対策の徹底	暖房器具の安全な利用を指導する。 綿密な計画の下、避難訓練、降下訓練及び消火訓練を実施する。	A A		
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門高校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	A B A	A	・図書館活用を高めるため、閲覧室内の環境整備を継続的に行う。 ・図書委員会活動の活性化を図り、生徒自身の読書意識の向上を図る。 ・古書の管理保管の状況を改善していく。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。	A B		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A		

	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	B		
渉 外 部	P T A総会等の成功	P T A総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。	A	A	・ H P の運営 ・ 支部活動の方法を見直して参加を促す。
	P T A支部活動の持続	支部会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B		
	校外生徒指導の実施	通用門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	A		
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修等の本部主催行事は工夫を凝らし、参加率を高める。	A		
	広報活動の充実	広報紙・H Pでの行事の案内や報告など、わかりやすくP T A活動を広報していく。	B		
農 場 部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	一人一人が輝く活力ある学校作り推進事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。 各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。 G A Pの教育を推進する。	A A	A	・ 校外体験学習活動は、引き続き推進していく。 ・ 農業クラブ活動の技術競技において、全国大会入賞を目指した指導を実践する。 ・ 農場施設設備の充実を図るため、計画を整備する。
	開かれた学校づくりを継続・発展と地域と連携した体験学習の充実	「農産物直売会」の運営に取り組む。 幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 地域連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する	A A A		
	プロジェクト活動や各種発表会・競技会等への積極的な取り組みと、農業クラブ活動の充実	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	A A		
	施設・設備の効率的且つ安全な利用	農場整備計画の策定	B		
	適正な会計事務と計画的な予算執行による円滑な学校運営	適正な事務執行及び集約した発注事務などにより、会計事務の適正化・効率化を図る。 教職員と連携を密にし、年間を通した計画的な執行により、円滑な教育活動に努める。	A		
事 務 部	定時制課程教科書給与費の制度周知	教科書給与費制度の周知を推進し、生徒の修学条件の改善を図る。	A	A	・ 家庭状況の早期把握により、高額滞納者への納付指導を早期に実施する。
	学校徴収金等の滞納の解消	保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携の下、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B		
国際教育委員会	タイ研修	タイの周知案内の徹底。ポスター掲示や学年集会を通して生徒の国際教育の理解を深める。	B	B	・ プログラム募集のよびかけや周知徹底を再行ったが、参加希望者一名にとどまり、実施できなかった。三期連続実施できない状況を踏まえ、渡航時期や内容について要検討。
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	A	A	・ 今まで全て、申し合わせで、運営されてきた寮の仕事の流れを明文化した運営方針が必要であると考えている。
	寮運営の改善及び活性化	寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮の有効活用を検討し、できることから実践する。	A		
	家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知を図り、連携を図る。	B		
1 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、服装頭髮指導に力を入れ、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、規範意識を持った行動ができるよう、集会やホームルーム・授業や実習の中でも継続して指導していく。	B	B	・ 化粧、ピアス、異装、授業中のスマホなど継続して指導していく。資格取得などの課外について、進路指導部や各教科と連携をさらに深めて充実した指導を行う。国体や災害ボランティアの参加をきっかけにして、校外活動の興味関心が高まっている。ボランティア活動、部活動、農業クラブ活動への積極的な参加をさらに推進する。
	進路指導の充実	昨今の厳しい進路状況に対し、1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	B		
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	A		
2 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、引き続き服装頭髮指導に力を入れ、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、規範意識を持った行動ができるよう、集会やホームルーム・授業や実習の中でも継続して指導していく。	B	B	・ 化粧、ピアス、異装、授業中のスマホなど継続して指導していく。夏季休業、冬季休業中の課外について、進路指導部や各教科と連携をさらに深めて、充実した指導を行う。国体や災害ボランティアの参加をきっかけにして、校外活動の興味関心が高まっている。ボランティア活動、部活動、農業クラブ活動への積極的な参加を推進する。
	基礎学力の向上	生徒が落ち着いて授業に取り組める環境を整える。放課後の課外授業を充実させ、基礎学力の向上を目指す。英語検定等の検定試験を積極的に受験させる。	B		
	進路指導の充実	進路ガイダンスや体験を通して勤労観や職業観を育てる。進路希望を明確にさせるとともに、希望の実現のために課外学習や資格取得に積極的に取り組むように促す。	B		
卒 学 年	進路の実現	自己の進路実現のための目標を立てさせ、個々の進路に応じた進路指導を行う。-----	B	B	・ 大学進学者については、大学が求める生徒像について研究し、組織で指導していく体制が必要である。就職希望者は、ガイダンス等を数多く実施し、生徒の自覚を促すことが大切である。
	基本的生活習慣の定着	家庭との連携を密にして、無断での欠席・遅刻・早退を防止する。 進路について意識させ、望ましい態度や正しい言葉使いなどができるようにする。	A B		
	規範意識の高揚	卒業学年であることを自覚させ、目標を持った生活を送らせる。	B		

		ルールを守ることの重要性を認識させ、自ら善悪の区別ができるようにし、社会人としての自覚を持たせる。			
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を工夫し、農業や自然環境を大切にする態度を育成する。 農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。 専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A A A	B	・充実した農業教育の指導体制をさらに維持する。 ・農場の管理と美化活動を推し進めることで環境を整備し、学習意欲と農業に対する関心がもてる生徒を育成する。 ・農業に関する基礎学力を身に付けさせるために、個の能力に応じた授業展開や教材の工夫を行っていく。 ・進路指導について、ホームルームや総合学習などの時間を使って早期に意識の啓発を行う。 ・それぞれが自信を持てる活動を見つけられるように、様々な体験活動を企画し参加してもらう。 ・集団行動を通し、基本的な生活習慣と態度を意識させ、身に付けさせる。
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。 実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	A B		
	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身に付けさせる授業展開を行う。 基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。 個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B B B		
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。 保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A A		
	進路指導の充実	ホームルームや道德の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。 アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓発する。 進路意識を啓蒙する取組を、学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。 ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	B B B B		
	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見付ける取組をする。 インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	B B		
	基本的生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境を創る。 人の話を聴ける態度を身に付けさせる。 一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A B A		
国 語 科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。 漢字力向上のため、読み書きを授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため、繰り返し自ら練習する姿勢を身に付けさせる。	A B A	A	・生徒一人一人の能力、進路に合わせた国語力の向上を支援する。 ・漢字、基礎的な読解力をつける授業展開や手立て、指導力の向上を図る。
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。 生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	A B		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。 基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A A	A	・今後も最新の情報を取り入れ、生徒の興味関心を高めていく。 ・視聴覚教材やＩＣＴの活用など、授業形態にも変化をもたせて生徒の意欲を高めつつ理解を深めていく。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。内容としては、時事的な現在進行形で起きている社会事象も適宜扱う。 ノート提出・小テストの実施等を定期的に実践し、生徒が現代社会に必要な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	B A		
数 学 科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 就職希望の生徒に対して、個別に就職試験対策の課外を実施し対応する。	A	A	・ＩＣＴを活用した授業の実践をする。 ・研修の機会を増やす。 ・個に応じた指導の工夫・改善に取り組む。
	数学検定資格取得の奨励	学期に１回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
理 科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。		A	・生徒の学力に合った教材を精選し、科学的思考力の向上を支援する。 ・生徒の進路に合わせた個別指導を実施する。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生の学力にあった教材を作成する。	B		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	A		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。 集団としてのきまりを守って、活動できる体育学習を展開する。 目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	A B B	B	・運動量を確保しながら、技能を向上させられるような工夫をする。また規律を守り協調性を育めるような場面の設定をする。
芸 術	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。 名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A A	A	・生徒の感性を育てるための教材を研究し、生徒に応じた教材の精選をする。
英 語 科	基礎学力の向上	挨拶や自己紹介など簡単な表現から始めて、よりコミュニケーションな活動を目指す基本的な単語や構文を理解し、それらを発話出来るようにする。 教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	B A	A	・より会話力を高めたり、自分の意見を伝えようとする意欲が高まる指導をする。 ・大学進学者にはSTEP英検準２級以上取得を目指す。 ・ALTとのティームティーチング を、より
	モチベーションの向上	ALTを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	A		
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	A		

	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。----- STEP英検等、より上位の資格取得を奨励する。	A B		効果的なものになるように計画する。
家 庭 科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	A	A	・自立した家庭生活を営むことができるように基礎的知識・技術の定着をはかる。 ・自ら考え、行動する態度を育成させる学習方法の工夫を継続する。
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A		